

京都教区

新型コロナウイルス感染症感染予防ガイドライン

—寺院・組・地区での法要・研修会・会議等における感染予防対策—

2020年12月25日現在

京 都 教 区

目 次

■ 京都教区新型コロナウイルス感染症感染予防ガイドラインについて	1
----------------------------------	---

＜京都教区新型コロナウイルス感染症感染予防ガイドライン＞

- 寺院・組・地区での法要・研修会・会議等における感染予防対策 - >

■ 1 新型コロナウイルス感染症感染予防の基本	2
■ 2 寺院・組・地区での法要・研修会・会議等における感染予防対策	2
■ 3 参加者・出席者の名前・連絡先・参加（出席）日付の掌握	3
■ 4 京都教区「新型コロナウイルス感染症感染防止講習会」	3
■ 5 京都教務所（常磐会館）感染予防ガイドライン	3

＜京都教区「新型コロナウイルス感染症感染防止講習会」＞

講義要録・質疑応答（Q&A）>

■ 講義要録	5
■ 質疑応答（Q&A）	7

＜参考資料＞

■ 「新しい生活様式」の実践例【厚生労働省 HP より】	10
■ 法要（葬儀・法事等）における新型コロナウイルス感染症の感染防止に 向けての宗派指針	11
■ 【東京教区】オンラインマニュアル「Zoom」法座配信について	12

京都教区新型コロナウイルス感染症感染予防ガイドラインについて

京 都 教 区

新型コロナウイルス感染症の影響により、寺院・組・地区におかれては、法要や研修会等の形態の変更や延期または中止を余儀なくされ、仏事の勤め方に苦慮する声が多く聞かれます。そのような状況の中、新型コロナウイルス感染症を正しく理解し、適切な感染予防対策を講じていただくため、このたび「京都教区新型コロナウイルス感染症感染予防ガイドライン」を作成しました。

本ガイドライン作成にあたっては、厚生労働省の「新しい生活様式」、宗派の「法要（葬儀・法事等）における新型コロナウイルス感染症の感染防止に向けての宗派指針」を基本に、近江第 25 東組組長（願心寺住職）であり、京都鞍馬口医療センター副院長でもある村頭智氏にご協力を仰ぎ、感染症の基礎知識・感染防止に関する講義（組長対象に 10 月 16 日開催）及び監修をいただきました。

寺院・組・地区におかれましては、すでに感染防止のため様々な対応や工夫をされていると存じますが、本ガイドラインを参考に、法要や研修会等における感染予防対策にご活用ください。

なお、今後の感染状況により、新たに行政機関等からの要請・知見、また新たな宗派方針が示された場合は、本ガイドラインの内容についても随時更新してまいります。

京都教区新型コロナウイルス感染症感染予防ガイドライン

- 寺院・組・地区での法要・研修会・会議等における感染予防対策 -

1 新型コロナウイルス感染症感染予防の基本

新型コロナウイルス感染症は、ウイルスが目・鼻・口の粘膜から体内に侵入して感染するもので、その感染様式は、飛沫感染と接触感染といわれます。致死率は高くなく恐ろしい病気ではありませんが、感染力が強く、無症状者でも感染性を持つことで蔓延しやすい特徴があり、高齢者や基礎疾患のある人の発症後の重症化も見られます。

よって人にうつさない、人からうつらないように行動することが最も重要であり、「手洗いの徹底」、「マスクの着用」、「3密（密閉・密集・密接）の回避」が感染予防の基本となります。

2 寺院・組・地区での法要・研修会・会議等における感染予防対策

法要・研修会・会議等の開催にあたっては、主催者は次に示す感染予防対策を参考に、参加者全員が感染予防を意識するよう対策を行ってください。

（1）手洗いの徹底

- ①会場にアルコール消毒液を設置する。
 - ②到着時に手洗いを行う。
 - ③必要に応じて非接触型検温計による検温を行う。
- 日程中、次の場合も参加者に手洗いを徹底してもらう。
- ・咳やくしゃみ、鼻をかんだあと
 - ・トイレのあと
 - ・共有のものを触ったあと
 - ・一旦会場を離れ、後で戻った時

（2）マスクの着用

参加者全員がマスクを着用する。マスクを着用することで感染リスクが大きく下がる。勤行や真宗宗歌・恩徳讃では、大声を控える。（咳エチケットの徹底）

※マウスシールド、フェイスシールドでの感染予防は不十分。（P7のQ&Aを参照。）

（3）会場の十分な換気

できるだけ2方向の窓・扉を開けて、1時間に2回程度の換気を数分間行う。会場が狭く、参加者の距離が十分とれない場合は、しっかり換気して感染リスクを下げる。

(4) 参加者の距離はマスク着用のうえ1メートル以上

参加者全員マスクを着用のうえ、1メートル以上の間隔をとり、対面による会話は控える。

(5) 講師と参加者との距離はマスク着用のうえ2メートル以上

対面となる法話や講義では、講師も参加者もマスク着用のうえ2メートル以上の距離をとる。十分な距離がとれない場合は、マイクの使用、遮蔽板の設置等の工夫が必要。なお、遮蔽板を設置し、2メートル以上距離をとれば講師はマスクを外すことも可能。

(6) お斎（会食）は控える

お斎（会食）は、できる限り控える。休憩時のマスクを外しての会話や飲食は、感染リスクが格段に高くなることを意識する。どうしても出席する場合は、大声を出さない、人と対面しない、料理を取り分けしない等を厳守する。

(7) 共用部分の消毒

共用の机・イスのほか、多くの人が触れるドアノブ、手すり、各種スイッチボタン等のアルコール消毒を行う。

(8) 日頃からの健康管理

毎朝の検温等、日頃から健康管理を行い、発熱や体調が優れない場合は、法要・研修会等への参加は控える。

3 参加者・出席者の名前・連絡先・参加（出席）日付の掌握

万が一感染者が出たときに迅速に公的機関へ法事や行事・会議等の参加者・出席者の連絡先等の情報を提供できるよう備えておいてください。

4 京都教区「新型コロナウイルス感染症感染防止講習会」

本ガイドラインを監修いただいた村頭智氏による講義（京都教区「新型コロナウイルス感染症感染防止講習会」2020年10月16日開催）の「講義要録・質疑応答（Q&A）」をP7以降に掲載しています。是非お読みください。

5 京都教務所（常磐会館）感染予防ガイドライン

本ガイドラインとともに、京都教務所（常磐会館）における職員及び館内設備をはじめ、教区主催の研修会・会議等（貸館含む）における感染予防対策をまとめたガイドラインを、京都教区HP（<https://www.k-kyoku.net/>）に掲載しておりますので、ご覧ください。

【参考】

◎厚生労働省ホームページ <https://www.mhlw.go.jp/>

「新型コロナウイルス感染症について」→「国民のみなさま向けの情報」→
「健康や医療相談の情報」→「感染予防のために」→「新しい生活様式を実践しましょう」 (P10)

◎真宗大谷派ホームページ <http://www.higashihonganji.or.jp/>

「新型コロナウイルス感染症への対応について」→「寺院・教会の皆様へ」
→「法要（葬儀・法事等）における新型コロナウイルス感染症の感染防止に向けての宗派指針」 (P11)

◎東京教区では、テレビ・WEB 会議システム「Zoom（ズーム）」を用いたオンライン法座を行うためのマニュアルとして「オンラインマニュアル『Zoom』法座配信（主催者編・参加者編）」が作成され、東京教区ホームページにてダウンロードできます。オンラインによる研修会等を検討される際には、ご活用ください。(P12・P13)

真宗大谷派東京教区ホームページ <http://www.ji-n.net/index.cgi>

- ・オンラインマニュアル『Zoom』法座配信主催者編（PDF 版）
- ・オンラインマニュアル『Zoom』法座配信参加者編（PDF 版）
- ・オンラインマニュアル『Zoom』法座配信参加者編（PowerPoint 版）

以 上

京都教区「新型コロナウイルス感染症感染防止講習会」 講義要録・質疑応答（Q & A）

2020 年 10 月 16 日 村頭智氏講演

<講義要録>

新型コロナウイルス感染症を理解する

- ・コロナウイルスは、太古から風邪の原因ウイルスの一つとして存在。現在の風邪の約 15%はコロナウイルスに属するものが原因。SARS、MERS もその一つ。
- ・初期にみられる頻度の高い症状は、発熱、咳、倦怠感、呼吸苦等の呼吸器症状。
- ・初期症状がインフルエンザや風邪に似ており、新型コロナとの鑑別は困難。
- ・味覚障害は 17.1%、嗅覚障害は 15.1%、下痢は約 1 割。
- ・ウイルス接触から 2～14 日間の潜伏期間を経て発症。
- ・発症者の 80%以上は風邪のような症状のみ。経過観察など対処療法で多くが軽快。特に子ども・若者は症状が出にくい。[軽症]
- ・発症者の 20%程度が 1 週間～10 日後に肺炎を併発し、薬物治療が必要。（レムデシビル・アビガンなど）[中等症]
- ・発症者の 5%程度が重症化、呼吸不全となり集中治療が必要。（人工呼吸器・エクモの導入）[重症]
- ・65 歳以上、慢性閉塞性肺疾患、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧症、心血管疾患、肥満（BMI30 以上）の人は重症化しやすい。
- ・生物学的製剤の使用、臓器移植後の免疫不全、HIV 感染症、喫煙歴、妊婦、悪性腫瘍も知見が揃っていないが要注意。
- ・PCR 検査は、抗原検査より感度は高く、症状の有無・時期に関係なく検査ができるが、検査時間が 1～5 時間、専用の検査機器・人員が必要で費用が高い。
- ・抗原検査は、PCR 検査より感度が劣るが、検査時間が 15～30 分、専用の機器・人員は不要で費用が安い。ただし、発症 2～9 日目の有症状者に限られる。
- ・接触しても感染しない、また感染しても症状が出ない場合もある。
- ・SARS や MERS に比べて蔓延力は強いが、致死率は低い。エボラ出血熱（致死率 50～90%）や MERS（同 34%）のような恐ろしい病気ではない。
- ・新型コロナに有効とされる薬がいくつか報告されているが、劇的な効果は期待できず、今後も特効薬が現れる可能性は低い。
- ・若年者で重症化することは極めてまれであるが、感染力が強く、発症前でも無症状者でも感染性も持つことで蔓延しやすい特徴を有する。
- ・高齢者で流行すると、重症者数や死亡者数が一気に増加する可能性あり。
- ・いかに感染を拡大させないように行動するかが極めて重要。

新型コロナウイルス感染症を予防する

- ・ウイルスは目・鼻・口の粘膜から侵入し感染する。（飛沫感染・接触感染）
- ・くしゃみ・咳等の飛沫を目・鼻・口に直接浴びる→飛沫感染
- ・感染者の飛沫が付着した場所を触れた手で目・鼻・口を触る→接触感染
- ・くしゃみや咳の飛沫は、約2メートルでほとんどが床に落ちる。
- ・人との距離で1メートル離れると約50%、2メートル離れると約75%感染リスクが軽減。マスク着用で感染リスクが大きく下がる。（咳エチケットの徹底）
- ・手洗いをしっかり行う。（くしゃみ・咳の後、共有のものを触った後、外出から帰った時、食前、トイレの後等）
- ・環境の消毒（ドアノブ、手すり、スイッチ等）
- ・2方向の窓を開けて、1時間に2回程度の換気を数分間行う。1メートル以上の距離を確保できない場合、いかに換気するかで感染リスクは大きく変わる。
- ・感染者（発症2日前から）と手で触れることのできる距離（1メートル以内）で、必要な感染予防策なし（マスクなし）で、15分以上の接触があった場合、濃厚接触者となる。
- ・濃厚接触者にならないためには、自分も相手もマスクを着用し、最低1メートル（できれば2メートル）の距離をとる。

新型コロナウイルス感染症の具体的な予防対策

- ・手洗い、マスク着用、換気が重要。
- ・参加者同士（座席）の距離は2メートル以上が理想だが、お互いマスク着用で1メートル以上離れていれば、濃厚接触者にならない。
- ・法話等の対面はマスク着用のうえ2メートル以上の距離が必要。距離が確保できない場合、マイクの使用、遮蔽板の設置等の工夫が必要。
- ・マスクを外すという感染リスクからも、お斎（会食）はできるだけ控える。
- ・やむを得ず会食するときは、大声を出さない、対面にならない、料理を取り分けない等を厳守。

まとめ

- ・新型コロナウイルス感染症は、致死率は高くないが感染力が強く、蔓延しやすい特徴がある。よってうつさないように、うつらないように感染予防することが極めて重要。
- ・法要等の行事では、参加者全員が感染予防を意識するよう主催者（僧侶）が指導する。
- ・感染予防の基本は、「手洗い」と「マスク着用」。
- ・大きな声を出す勤行等や対面する法話等は、各会場で工夫が必要。
- ・食事・休憩は、感染リスクが高いことを認識する。

＜質疑応答（Q & A）＞

Q：寺院で落語会を開催する場合、聞き手がマスクを着用していれば、話し手は通常のマスクではなく、マウスシールドやフェイスシールドでもよいか。

A：マウスシールドやフェイスシールドは、サージカルマスク（不織布マスク）の代わりにはならない。それだけでは感染予防は不十分である。話し手がマウスシールドやフェイスシールドを着用する場合は、話し手と聞き手の距離をしっかりと、定期的な換気を実施されることが望ましい。

※フェイスシールドは本来、目を守るためのものである。医療現場では口・鼻に加えて目を守る場合に、マスクを着用したうえでフェイスシールドを追加している。また、医療施設ではマウスシールドやフェイスシールドのみ着用の方にはマスクの着用が求められる。

Q：いろいろな種類のマスクがあるが、サージカルマスク（不織布マスク）が一番安心・安全か。

A：不織布を使用した一般的にサージカルマスクと呼ばれるものが感染対策上、一番確実である。

Q：お互いマスク着用で対面して話す場合は 1 メートルの距離が必要とのことだが、対面しない教室型等の机・イスの配置で全員がマスクを着用すれば、前後の座席間隔は 1 メートルよりも狭くてもよいか。

A：マスク着用で横並びであっても、前後左右は最低 1 メートルの距離をとっていただきたい。対面よりも横並びの方が感染リスクは低いだろうが、会議等の場で会話が全くないというのも難しいので、やはり距離は必要である。

Q：お参りの方にマスクの着用と手洗いをお願いしているが、実際はアルコール消毒液による手指消毒で済ませている。アルコール消毒の場合、手に付けて 1 分くらいじっとしていないと効果がないと聞いたことがあるがどうか。

A：手を清潔にするには、①石鹸と流水による手洗いと、②アルコール性消毒剤による手指消毒の 2 つの方法がある。②の方が細菌やウイルスに対する殺菌効果は圧倒的に高いが、物理的に洗い流すということができない。たんぱく成分の付着等、手が汚れている時は①が適している。手に汚れがない時は②の方が殺菌力も高く手軽でより良い。しかし、どちらの方法もただ手に付けるだけではなく、【手のひら・手の甲・指の間・親指・指先・手首】の 6 か所を順に沿って洗わなければならない。アルコール消毒も手軽と言っても手に付けただけでは手のひらしか綺麗になっていないので、「しっかり時間をかけてくまなく消毒してください」という意味だと思う。

Q：感染予防にはうがいも必要か。

A：うがいも感染予防に有効なので、積極的に行ってほしい。

Q：物に付着したウイルスはどのくらいの期間で死滅するのか。接触感染が不安である。

A：物の表面には 3 日間、もしくはそれ以上の期間生存するとも言われているが、これはウイルスを直接塗って生存を調べた実験結果であり、実際にその箇所を触って感染するかどうかは別である。もしそのような感染力であれば、つり革や手すり等に触っただけで、どんどん感染してしまう。もちろん実際に感染した患者さんの病室等は、接触感染の感染率が高いかもしれないが、日常生活で物に付着したウイルスに触ったからといって感染するものではない。ただ、それは誰にも分からないことなので、自分の周りは汚れている、余分なところを触らないという行動が大事である。そしてマスク着用、うがい、手洗いといった基本的な予防をしっかりと行うことが何よりも効果的である。

Q：空気が乾燥すると流行しやすいインフルエンザや風邪の予防対策として、加湿をしているが、新型コロナウイルス感染症の予防にも加湿は有効か。

A：一応有効だとされている。新型コロナウイルス感染症は、呼吸器感染症を起こすリスクがあるという意味では、インフルエンザや風邪と同じである。しかし、流行については新型コロナウイルス感染症が夏場でも流行しているので、インフルエンザ等よりも季節性が少ないかもしれない。加湿することはよいことだと思うが、こういった条件で有効と明確に示すのは難しい。

Q：寒い季節にご門徒と本堂で集まる際は、ストーブはつけたまま定期的に換気を行い、マスクを着用して厚着でお越しいただくといった工夫が必要か。

A：人が集まる場合は、そのような工夫をとっていただきたい。

Q：アメリカやヨーロッパでは非常に致死率が高いような報道だが、日本では医療崩壊が起こらなければ、そのような致死率にはならないと考えてよいか。

A：致死率とは、発症した方がどれくらい亡くなるかという数値である。現在、日本では発症者に対する死亡者の割合は 2%弱、アメリカでも 4%弱であり、世界的に見ても 5%前後で一定しており、発症者に対する死亡者というのはそれほど多くない。しかし、人口 10 万人あたりでどれだけ発症したか、どれだけ死亡したかを見ると、海外の方が 10 倍、場合によっては数十倍多く発症している所以その分死亡者も多くなる。

Q : ウイルスの変異により弱毒化していく可能性が高いと聞くが、弱毒化したとしても特效薬の普及には時間を要する。以前の生活に戻る可能性はあるのか。

A : 大変難しい質問である。弱毒化する可能性が高いのではないかとされているようだが、今現在弱毒化しているとは思えない。第 1 波よりも第 2 波の方が重症化率や致死率は圧倒的に下がっているが、この短期間でウイルスが弱毒化するとは考えられないので、弱毒化とは関係がないと考えられる。現在の生活がいつまで続くのかということは私にも分からないが、すぐに収束するのは難しいと思う。

Q : 新型コロナウイルス感染症が収束した後も、マスク着用の生活は続くのか。

A : 感染が鎮静化し収束したら、全員がマスクを着用しなければならない状況はなくなると思う。マスク着用の一番の目的は、自分の飛沫を外に出さないということ。新型コロナウイルス感染症はインフルエンザ等の感染症とは違い、症状が出る前から感染力があるため、現状では全員がマスクを着用しなければならない。

Q : 地域によって感染状況は異なると思うが、全国的に新型コロナウイルス感染症が収まり、政府が収束と判断しない限りは、非流行地域においても通常の法事やお講は再開できないのか。

A : 医学的な話になるが、非流行地域であるからと言って感染対策をしなくてもよいとは言えない。地域のコンセンサスを得て、社会的な判断として「私たちの地域では現状このようなかたちで開催しましょう」とすることも可能であると思うが、感染リスクを考えると大丈夫だとは言いきれない。

以 上

「新しい生活様式」の実践例

(1) 一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の3つの基本：①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い

- ☐ 人との間隔は、できるだけ2m（最低1m）空ける。
 - ☐ 会話をする際は、可能な限り真正面を避ける。
 - ☐ 外出時や屋内でも会話をするとき、人との間隔が十分とれない場合は、症状がなくてもマスクを着用する。ただし、夏場は、熱中症に十分注意する。
 - ☐ 家に帰ったらまず手や顔を洗う。
人混みの多い場所に行った後は、できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
 - ☐ 手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗う（手指消毒薬の使用も可）。
- ※ 高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

移動に関する感染対策

- ☐ 感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- ☐ 発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。接触確認アプリの活用も。
- ☐ 地域の感染状況に注意する。

(2) 日常生活を営む上での基本的生活様式

- ☐ まめに手洗い・手指消毒 ☐ 咳エチケットの徹底
- ☐ こまめに換気（エアコン併用で室温を28℃以下に） ☐ 身体的距離の確保
- ☐ 「3密」の回避（密集、密接、密閉）
- ☐ 一人ひとりの健康状態に応じた運動や食事、禁煙等、適切な生活習慣の理解・実行
- ☐ 毎朝の体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養



(3) 日常生活の各場面別の生活様式

買い物

- ☐ 通販も利用
- ☐ 1人または少人数ですいた時間に
- ☐ 電子決済の利用
- ☐ 計画をたてて素早く済ます
- ☐ サンプルなど展示品への接触は控えめに
- ☐ レジに並ぶときは、前後にスペース

娯楽、スポーツ等

- ☐ 公園はすいた時間、場所を選ぶ
- ☐ 筋トレやヨガは、十分に人との間隔を
もしくは自宅で動画を活用
- ☐ ジョギングは少人数で
- ☐ すれ違うときは距離をとるマナー
- ☐ 予約制を利用してゆったりと
- ☐ 狭い部屋での長居は無用
- ☐ 歌や応援は、十分な距離かオンライン

公共交通機関の利用

- ☐ 会話は控えめに
- ☐ 混んでいる時間帯は避けて
- ☐ 徒歩や自転車利用も併用する

食事

- ☐ 持ち帰りや出前、デリバリーも
- ☐ 屋外空間で気持ちよく
- ☐ 大皿は避けて、料理は個々に
- ☐ 対面ではなく横並びで座ろう
- ☐ 料理に集中、おしゃべりは控えめに
- ☐ お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避けて

イベント等への参加

- ☐ 接触確認アプリの活用を
- ☐ 発熱や風邪の症状がある場合は参加しない

(4) 働き方の新しいスタイル

- ☐ テレワークやローテーション勤務 ☐ 時差通勤でゆったりと ☐ オフィスはひろびろと
- ☐ 会議はオンライン ☐ 対面での打合せは換気とマスク

※ 業種ごとの感染拡大予防ガイドラインは、関係団体が別途作成

2020年4月17日

法要（葬儀・法事等）における新型コロナウイルス感染症の
感染防止に向けての宗派指針

＜真宗大谷派＞

このたび、法要（葬儀・法事等）における新型コロナウイルス感染症の感染防止に向けての宗派指針を取り纏めましたので、感染拡大防止に向けてご門徒や有縁の皆さまと十分にご相談いただき、下記のとおり対応くださるようお願いいたします。

記

- 1 法要前には必ず、手洗い・手指の消毒を厳守ください。また、参列者にも同様に手洗い・手指の消毒を徹底いただくよう依頼ください。
 - 2 常に咳エチケットを心掛けるとともに、勤行・読経の際にもマスクを着用ください。また、参列者にも同様にマスクの着用を徹底いただくよう依頼ください。
 - 3 感染リスクを減らすため、3つの「密」を避けてください。
 - ①「密閉空間」を避けるために、できるだけ換気をしてください。
 - ②「密集場所」を避けるために、参列者にできるだけ間隔をあけて着席するよう促してください。また、お焼香も間隔をあけるよう配慮ください。
 - ③「密接場面」を避けるために、間近での会話や対面による会話を可能な限り、避けてください。
- ※法話は一定の距離（2メートル以上）をあけてください。
- 4 法要終了後のお斎（会食）は控えてください。
 - 5 37.5℃以上の発熱や体調の優れない方には、法要への参列を控えていただくよう依頼ください。
 - 6 新型コロナウイルス感染症で亡くなられた方の通夜・葬儀等を執り行うにあたっては、国の方針（※厚生労働省が示す「新型コロナウイルスに関するQ & A（関連業種の方向け）令和2年4月15日時点版、3．遺体等を取り扱う方へ」等）を踏まえた上で医療機関や葬祭場とも連携をし、感染防止のための衛生対策に努めてください。
 - 7 日常的な自己管理を徹底し、感染症の媒介者とならないように留意ください。
 - 8 新型コロナウイルス感染症への対処法を正しく理解し実行することで、差別や風評被害が広がらないように努めてください。

以 上

オンラインマニュアル「Zoom」法座配信のご紹介

オンライン（Zoom）による法座配信等を実施するための「主催者用マニュアル」および配信された法座に参加するための「参加者用マニュアル」が東京教区により作成されました。

主催者編では、機材購入時に悩まないよう、推奨機材例や概算も写真つきで丁寧に記されています。参加者編では、Zoomアプリの導入から接続テスト、参加に際する注意点やマナーについても順序立てて説明されています。初めての方でも非常に親しみやすい内容となっています。

つきましては、真宗大谷派東京教区ホームページからダウンロードできますので、是非ともご活用ください。

真宗大谷派東京教区 オンラインマニュアルプロジェクト



オンラインマニュアル 「Zoom」法座配信



主催者 編



目次

趣旨	1
必要な機材	2
役割・仕事	5
オンライン活用事例	7
YouTube編	13

マニュアルをお読みいただき、ご不明な点がございましたら京都教区からもお問い合わせいただけます。

お問い合わせ -オンラインでお困りのことがございましたら-

本マニュアル/オンライン配信についてのお問い合わせ

真宗大谷派東京教務所 担当：佐々木弘明、渡邊 楽

tokyo@higashihonganji.or.jp

TEL:03-5393-0810

真宗大谷派東京教区

オンラインマニュアル「Zoom」法座配信のダウンロードは



真宗大谷派東京教区ホームページ

暮らしにじいーん

検索

<http://www.ji-n.net/index.cgi>

テレビ・Web会議システム

Zoom 参加マニュアル

オンラインマニュアル
参加者 編

—お問い合わせはこちら—

主催者名

電話番号

メールアドレス



zoom はじめに

テレビ・Web会議システム「Zoom（ズーム）」<https://zoom.us> は、パソコン、スマートフォン、タブレット端末で利用できます。ご利用の機器をご用意の上、以下の手順にてご利用のための作業をお願いいたします。不明な点は主催者にお問い合わせください。

Zoom参加に必要なもの

- 1.使用機器（パソコン・スマートフォン・タブレット）
- 2.インターネット回線
- 3.Zoom公式アプリ（スマートフォンは必須）
- 4.使用機器で使用するメールアドレス等

◆もくじ （アプリ導入から参加までの流れ）

1

Zoomアプリ導入



パソコン

2

Zoomアプリ導入

スマートフォン
タブレット

4

ブラウザで参加
（アプリ設定できない場合）

3

接続テスト

5

主催者から案内を受け取り、参加する

注意点・マナー・・・6

Zoomの使い方・・・7

困ったときは・・・8



真宗大谷派（東本願寺）京都教務所

〒600-8164

京都市下京区花屋町通り烏丸西入

TEL : 075-351-5260

FAX : 075-351-5256

Email : kyoto@higashihonganji.or.jp

HP : <https://www.k-kyoku.net/>

発行年月日 : 2020 年 12 月 25 日